超高齢社会に向けた分野横断研究会
NEWS LETTER Vol. 7
発行：2021 年 8 月 発行者：横浜市立大学 都市社会文化研究科 陳 礼美研究室　中井 紬

日本版 CCRC の本質と展望　認知症対応／政策変遷／大学連携の視点から
松田 智生先生　（株式会社 三菱総合研究所 主席研究員 チーフ・プロデューサー）

7 月 26 日 Zoom にて、第 7 回目の研究会が開催されました。今回は松田先生に、アメリカの CCRC の事例をご紹介いただいたあと、日本の CCRC における事例や政策と、これからの展望についてお話しいただきました。

継続的なケアを提供する退職者の共同体である CCRC（Continuing Care Retirement Community）は、全米に 2 千箇所、約 70 万人が居住しているとのことで、現在、約 4 兆円の市場価値があるそうです。アメリカの CCRC は、1 つの敷地にどの介護区分にも対応できる施設があり、もし介護が必要になっても居を移す必要はないそうです。そのため、元気な時からコミュニティに入り、たとえ要介護になったとしても一つの場所に住み続けられます。さらに、介護サービスを受けるようになっても原則家賃は変わらないため、今の自分の貯えと相談して、自分に合った CCRC に入ることができます。このような予測可能（predictable）な老後と、高齢者の QOL を高める新しいライフスタイルとして、CCRC が注目されているとのことでした。また、その本質は、健康や介護の支援による「カラダの安心」、生活コストや介護時の費用に見通しが持てる「オカネの安心」、施設そのものや活動によって生きがいや繋がりが生まれる「ココロの安心」にあるとのことでした。CCRC の種類には、居住地を中心に、半径 1.5 メートル以内の既存の施設の機能と連携している「中心市街地型 CCRC」や、年間 450 時間以上授業を受けることを入居条件とする、生涯学習に重きを置いた「大学連携型 CCRC」などがあり、他にも数多くご紹介いただきました。前者は日本とも親和性が高いとのことで、高齢者住宅や大学生の住まい、児童入所施設などが共存し、それぞれが役割を担っている「シェア金沢」についてお話しいただきました。他にも、愛媛県宇和島市では、地域交流の拠点で多世代交流や介護予防を行う、CCAH（Continuing Care at Home）という在宅ベースの継続的介護モデルもあるとのことでした。

今後の展望として、CCRC に貢献した時間によって、地域通貨や将来の介護時間に交換できるポイント制度や、居住者を客員研究員として扱う大学連携型 CCRC などのアイディアをお話しいただきました。

質疑応答では、日本型の CCRC は、アメリカ型のように閉ざされた施設ではなく、地域に点で存在する施設を線でつなぐことによって面にしていく、ということが良い側面で、これを海外へ逆発信していくのも良いかもしれない、という話題が出ました。

*+

次回研究会のお知らせ

第 8 回目の超高齢社会に向けての分野横断研究会は、9 月 30 日木曜日の 18 時 00 分から 20 時 00 分まで Zoom で開催いたします。8 月の研究会は、休会です。

「マンションにおける認知症高齢者・障害者の課題と解決策について」（仮題）をテーマに、神奈川大学法学部教授 角田 光隆先生にお話しいただきます。

+

研究会 SNS のご紹介

研究会に関する情報を発信しております。ぜひフォローください！

Facebook グループ：https://www.facebook.com/groups/chokoreishakai

slack：研究会メールにご連絡いただきましたら招待させていただきます。

**研究会に関するご質問・ご要望などは koreisyhakai@gmail.com へ
お気軽にお問い合わせください！**